

先主日は世界宣教週間の関連でヨハネの福音書から学びました。今日はピリピ人への手紙の学びです。

1. 妬みからと善意から (1章15節)

- ①前節までのこと (12～14節) パウロは自分の「身に起こったこと」(12節)、つまり投獄されたことが、むしろ良いことになったと言っています。キリストにある兄弟達が確信を持つようになり、恐れることなく大胆に御言葉を伝えるようになったというのですから(14節)。私たちもここから「マイナスがプラスへ」と題して学んだことでした。
- ②妬みや争いをもって (15節) ところがなんと、中にはキリストを宣べ伝えるのに、妬みや争いの心からそれを行なっている者達がいるというのです。クリスチャンにもそのような人々がいたと聞けば、がっかりする向きもあるかもしれません。しかし、それが現実だといえます。パウロがキリストによって人生を変えられ宣教のわざをするようになってから、その働きは目覚ましいものがありました。それに対して妬みや競争心を持つ人々がいたというのは、さもありませんという感じもします。なにしろパウロは主から大いに用いられていたからです。
- ③善意をもって (15節) キリストを伝えるにあたって、「善意からそれを行なう者もいる」というのは、キリストの福音を伝えたいという心からなされていることでしょう。善意をもって働きがされているという光景は想像するだけでうれしいものです。

2. 愛からと不純な動機から (1章16～17節)

- ①愛を持って (16節) キリストを伝えるのに、愛(アガペー)をもってこれをなすならば、受け取る者たちもキリストの香りを感じ取ることでしょう。打算のない一方的な愛の姿勢はそれを聞く者たちは、福音の本質に触れることになるのです。
- ②福音を弁証するために (16節) 新改訳聖書では「弁証するために立てられている」とありますが、ここは自然に「弁証することで投獄されている」と解したほうが良いかもしれません。愛をもって語る人は、パウロがどうして投獄されているのかという質問に対して、「福音宣教」をしてきたからだ素直に受け入れることができました。
- ③純真な動機からではなく (17節) 15節でも出てきましたが、キリストを伝える者達のなかには不純な動機からこれをなしている者達もいました。そのような出発点から始めると、結果として獄中にあるパウロたちはさらに苦しむことになるのです。

3. 喜んでいる (1章18節)

- ①見せかけでも真実でも みせかけと真実とは正反対です。外側だけが同じ形でも中身が違うのなら、それは本物ではないといえます。松本清張に「真贋の森」という短篇がありました。贋作(がんさく→にせもの)を作る事に命を燃やす人物が描かれていました。
- ②キリストが伝えられている 見せかけだけでキリストは伝えられるのがという問いがあるでしょうが、それは可能なのです。いのちが入っていないくても、外側だけを同じにしつらえることはできます。結婚式場を教会という人があり、教会といえば結婚式場のことと勘違いする人達も少なくありません。
- ③喜んでいる パウロはそれでも、福音が伝わっているのなら良いではないかと鷹揚です。偽善を廃するパウロが意外な発言をすると思われる人があるでしょう。それも「喜んでいる」といっているのですから、本気でそのように思っていると読むことができるのですから、余計にわからなくなるかもしれません。

《結論》 私は説教をするにあたって、妬みを動機に行なったという記憶はありません。しかし、長い伝道者生活で他の伝道者を妬んだとことがあることを告白せねばなりません。党派心についても、行動に移すことはなくても、心の内にそのような思いが生じたこともあります。思うに、人間の罪のうちで妬みや党派心というのは本質的で、とても根強いものではないでしょうか。映画「アマデウス」のなかで、サリエリはモーツァルトを激しく妬むのです。サリエリもそれなりの音楽家でしたが、モーツァルトの才能にかなわないことを強く感じ妬みの情が深まるのでした。神が与えた天才に対する妬みでした。

今朝私たちは聖書記事から、パウロの時代にあってキリストを伝えた者達のなかに、パウロに対して妬みや党派心といった思いから、キリストを宣べ伝えた者達があったという事実を知りました。現在から見れば、主から特別の召しと賜物をもたらしたパウロの働きを妬んでもしょうがないのと思うでしょう。でも、そのような対抗心を持つ人々があっても不思議ではありません。それが人間の罪でありますから。著名な神学者であり説教者だった渡辺善太という人に『偽善者を出す処』という著作があるそうです。シニカルな言い方ですが、教会にもそのような罪が生まれるのです。パウロがそれでもキリストが伝えられたとあって感謝し、「喜んでいる」のはその中にも神の恵みがあると信じたからでしょう。私たちは教会の交わりの中にあって、不純な心が宿りやすいのです。主の赦しときよめをいただくしかありません。主の前に告白していきましょう。